

今日の 話題

金利と為替レート

人気アニメ「ガンダム」の敵役ジオンはなぜ戦争を始めたのか。それは債券発行にて資金調達し宇宙都市を建設するも想定より入植者が少なく、ジオンは返済に困る。そこで戦争勃発によるインフレ・高金利誘導により債券価格を引下げ、買取償還をしようため、という面白い話を聞いた。

債権者に謝るザビ家（ジオンの支配者）も見てみたいが、金利上昇＝債券下落は理論的に正しく、そして今まさに同じ状況が起きていることに驚く。

ウクライナ問題を機とした世界的インフレに各国が高金利政策を取った結果、低金利の円が売られ円安となっているのはご存知の通りである。これは国債を引受ける日銀では、保有国債価格維持のために低金利政策を取らざるを得ないためだ。他国中央銀行でも多少の自国債引受はあるが、日銀はそ

のケタが違うのである。

対人民元レートにおいても円安が続ぎ、今や20円/元を超えた。しかし中国では冷え込む不動産市況やゼロコロナ政策への経済対策から、5月にプライムレートを引下げ、追加利下観測もある。

では同じ低金利同士、人民元も円と同じく安くなる、と言いたいところであるが、ハードカレンシーではない人民元の場合金利差による為替への直接的影響は考えにくい。ここではドルを中心に人民元と円の関係を考えてみる。

年初6.4元/ドルで推移していた人民元は上海ロックダウンの影響もあり4月以降6.7元/ドルまで下落している。しかし日本円は人民元からさらに円安になっているということは中国の景気減速やゼロコロナ政策への警戒よりも、日銀が1000兆円を超える国債残高の50%超もの引受をしている異常状況をマーケットがネガティブに見ているという結果であろう。

今や日本の最大の貿易相手国は中国で、輸入超過の状況にある(2020年度、財務省貿易統計)。ジオンと違い巨額過ぎる国債が償還できない日本が取るべき政策はあるのだろうか。

(金本勲相 BP アジアコンサルティング代表・公認会計士)